

○議事概要

箕面市介護老人福祉施設（広域型特別養護老人ホーム）整備・運営事業者候補者選定会議

1. 会議の開催状況

- (1) 開催日時：令和8年（2026年）1月8日（木）午後2時から午後4時30分
- (2) 開催場所：箕面市立総合保健福祉センター1階 調整委員会室
- (3) 構 成 員：岡本 秀（健康福祉部長）【座長】
長谷川 千波（健康福祉部担当副部長）【副座長】
村尾 悠（健康福祉部高齢福祉室長）
坪田 忠宏（市民部介護・医療・年金室長）
明石 隆行（有識者・種智院大学教授）
瀬瀬 和雅（有識者・公認会計士）
- (4) 事 務 局：健康福祉部高齢福祉室
- (5) 応 募 者：社会福祉法人ひじり福祉会、社会福祉法人暁光会、社会福祉法人三養福祉会、社会福祉法人孝栄会

2. 議事概要

- (1) 座長挨拶ののち、事務局より当日スケジュールおよび採点方法等について説明を行った。
- (2) 応募法人によるプレゼンテーションおよび質疑応答
 - ・応募者である「社会福祉法人ひじり福祉会」「社会福祉法人暁光会」「社会福祉法人三養福祉会」「社会福祉法人孝栄会」よりプレゼンテーション（提案内容の説明）が行われた。
 - ・主な質疑は以下のとおり。

【社会福祉法人ひじり福祉会（増床提案：6床）】

- (質問) 人員体制について、外国人人材で特に課題となるのは、言葉や価値観、生活習慣、記録の取り方等。そういった課題を抱える中で、いかに人材の定着を図っていくかが重要だが、外国人人材の離職を防ぐために、法人としてどのような育成をしているのか。
- (回答) 現在、10名の外国人人材を採用している。ほとんどが介護福祉学校で2年間勉強しながら、学生アルバイトとして本施設で働き、そのまま就職した職

員であるため施設にも慣れており、日本語能力試験N3のレベルで、業務への理解が深い。また、法人では、職員寮を用意している他、外国人職員の担当者を1名決めており、業務の質問等はその担当者を窓口にしており、意思疎通はできていると考えている。

(質問) 他に外国人人材に対して個別研修等を行っているか。

(回答) 基本的には専門学校と同等の技術知識を持っているものとして採用しており、特別なことはしていない。様式4-11の研修計画どおり実施している。

(質問) 令和6年度の決算状況について、介護保険事業収益および老人福祉事業収益が増額しているが、その要因は。

(回答) 令和6年度介護報酬の改定と、特に特養の入所について空床を作らないよう努力したことによるもの。デイサービスも介護報酬が少しずつだが回復している状況。

(質問) 設備に関して、建築関係の市審査部局への事前協議をしていないようだが、大きな設備変更はあるか。

(回答) 大きな設備変更はない。市審査部局への確認は改めて行う。

(質問) 「介護保険事業に関する過去5年分の指定権者からの指導状況、指摘事項等の写し及びそれらへの対応記録(写し)」の提出がないが、運営指導等の実施自体がなかったということか。

(回答) そのとおり。

(質問) 何らかの指導があった際にどのように改善を行うのか、体制等が決まっているのであればその内容を教えてほしい。

(回答) 過去5年分以前も基本的には大きな指導はなかったが、指導があった場合は、パソコン等により、職員に指導内容を漏れなく情報共有をすることを徹底している。

(質問) 短期入所を特養に転用するということだが、地域の短期入所の資源としては減る。短期入所利用者の人数からすると問題ないと考えているか。また、特養の空床利用での短期入所の受け入れは考えているか。

(回答) 空床利用での短期入所の受け入れは行う予定。法人内でもう一つ短期入所生活介護事業所を運営しており、そこも常に満床ということではないため、そちらを利用いただくことも考えている。

【社会福祉法人暁光会(増床提案:6床)】

(質問) 人員体制について、外国人人材で特に課題となるのは、言葉や価値観、生活

習慣、記録の取り方等。そういった課題を抱える中で、いかに人材の定着を図っていくかが重要だが、外国人人材の離職を防ぐために、法人としてどのような育成をしているのか。

(回答) 現在勤務している外国人人材は2名で、半年を過ぎたところ。文化の違いへの配慮や寮の提供を行っている。現在入職している外国人人材は、日本語能力試験のN3とN4のレベルであり、入職当初からコミュニケーションについては問題ない。eラーニングを通じた教育教材の導入をしているため動画のスピードを調整でき、介護技術だけでなく人権など幅広い内容が網羅できている。今後、新たに2名が入職予定だが、すでに入職している2名と同じ国のかたで調整しており、当面の間は同じ国のかたに来ていただき少人数のコミュニティを作ることが人材定着にも寄与するのではないかと考えている。

(質問) 認知症のケアは日本人であっても十分な理解が必要。外国人人材に対する研修等の状況は。

(回答) 採用半年を超えて日本語の理解も深まってきたので、今後、認知症介護基礎研修を受講してもらう予定。

(質問) 資金収支内訳表について、事業活動資金収支は赤字が続いている。短期はそれほどでもないが、今回、入所について増やすことでどのようなプランを考えているか。

(回答) コロナ禍での活動自粛により、新規入所が受け入れできない状況が続いたため赤字となっている。そういった事態が今後なければ、今回の転用により定員が70名から76名になり安定した収入の確保がしやすくなると考えている。特養は空床利用ができるので、入院等で一時的に空いている間は短期入所での利用を想定。

(質問) 転用による設備の変更はあるか。転用開始時期はいつ頃を考えているか。

(回答) 令和8年4月1日からの転用を考えている。大阪府への定員変更についても準備中。設備は、個室のうちの6床をそのまま特養に転換するので、原則何も変わらない。

(質問) 様式4-9の事故防止と感染症防止のマニュアルについて、「全職員への配布『無』」とあるが、職員への周知方法は。

(回答) スタッフルーム等に常設している。また、たとえば感染症については委員会を開いてマニュアルの見直し・更新をしており、改定した分を各部署に回覧し、全職員が確認したことを押印により確認している。

【社会福祉法人三養福祉会（増床提案：7 床）】

- （質問） 人員体制について、外国人人材や無資格者の育成の取組はどう考えているか。
- （回答） 法人として EPA 介護制度での外国人人材の受け入れ経験がある。研修は、eラーニングを通じて実施している。
- （質問） 今回の転用にあたり、市審査指導室への事前相談を実施いただいており、駐車場について言及があったということだが、転用により附置義務駐車場の数が変わるということはないか。
- （回答） 数については変わらず、駐車場の確保ができていないかを確認された。
- （質問） 感染症防止マニュアルの添付・提出は特段されていないが、どのようなものを作成されているか。
- （回答） 感染症については様々な症状に合わせてマニュアルを作成しており、このほか BCP も策定済み。
- （質問） 認知症や看取りに関する取組はどうか。
- （回答） マニュアルは作成しており、外部研修も含め研修実施している。

【社会福祉法人孝栄会（新設提案：70 床）】

- （質問） 特別養護老人ホームは多くの認知症高齢者が利用される施設。令和 6 年 1 月の認知症基本法施行後に法人が設立されているが、応募資料の中で、認知症基本法のことを触れられていない。認知症ケアについてどのように考えているか。
- （回答） 認知症ケアについては箕面市の第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にも重点施策として掲げられているところ。介護職員が認知症に対する正しい理解をしたうえでサービスにあたるのが非常に大事と考えている。認知症利用者の方々の人権を尊重し、自己決定を尊重したサービスの提供ができるように、マニュアルを整備したうえで、年 3 回は研修を実施する。認知症のある入居希望者のかたに関しても、入所前のケース会議等々で職員間の情報共有をし、積極的に受け入れるということを、現在運営している施設でも実施している。また、地域のかたとの交流の機会を設けながら、認知症に関する啓発活動等にも積極的に関わっていきたいと考えている。
- （質問） 防災の関係について、業務体制やマニュアルでは、一般的な内容が書かれているだけで、施設の特徴に応じた対応の記載がない。また、発電機の備蓄が

ないようだが対応はどうする予定か。現在運営している施設について、施設所在市の防災訓練への協力をされているかも伺いたい。

(回答) まず発電機については、行政の補助金などを活用して今後対応をしていきたいと思うが、本法人理事長が取締役を務める系列法人で多数備蓄があるので当面の間はこれらを活用する考え。現在運営している施設所在地との災害訓練について、共同実施等はできていないが、行政の担当者と話をする中でマニュアルの中身の調整なども進めていこうと準備しているところ。また、BCP（事業継続計画）については作成している。

(質問) 令和7年度事業計画書に「新たな高齢者福祉施設の開設を模索する」とあるが、広域型特養のことを想定していたのか、また、今回本市公募に参加いただいたことについて、箕面市に対してどういった理解をされているか。

(回答) 「高齢者福祉施設の開設を模索する」という部分について、各市町村の第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定を予め確認していたため、箕面市での広域型特養についても想定の中に入っていた。もともと、系列法人において箕面市で住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の開設を検討しており、市内で土地を探していた。そのタイミングに今回の箕面市の公募が重なったことと、箕面市の介護事業所や他市から住所を移されるかたから、箕面市に施設を作ってほしいという声があったのが理由。

(質問) 「介護保険事業に関する過去5年分の指定権者からの指導状況、指摘事項等の写し及びそれらへの対応記録（写し）」の提出がないが、運営指導等の実施自体がなかったということか。

(回答) お見込みのとおり。既存施設は開所したばかりで、運営指導自体がなかった。

(質問) 今後、そういった指導等が行われた場合の対応についてはどのように考えているかを教えてほしい。

(回答) 日々の取組を徹底することに尽きると思っている。3年に一度介護保険制度が変わるため、それに柔軟に対応しながら、日々の業務を徹底してやっていく、また、研修を充実してやっていく。また、今後は外部の第三者評価など第三者からの視点も取り入れたいと考えている。

(質問) 人件費のシミュレーションを提出いただいているが、どのように算出されたものか。

(回答) 人件費のシミュレーションについては現在運営している施設の実績をもとにしている。4月には介護職員処遇改善の前段階となる補助金があるため、こ

の時点で見直しをかけるかについては今後検討していきたいと考えている。

(質問) 現在運営されている施設について、1 年未満で退職された職員が複数名いらっしゃるようだが、職員の定着率や維持などはどのように考えているか。

(回答) 介護職員としての経験値は十分にあったが、特養での経験は少し乏しく、住宅型有料老人ホーム等との働き方とのギャップにより短期で離職されたかた等がいた。直近では、採用の前に入所者の介護度の説明をしっかりと行ったり、特養での勤務経験があるかたにフォーカスしたりして進めている。

(質問) 介護人材の確保が非常に難しい状況。この点については困難であることは認識されており、専門学校や系列法人の人事交流を経て確保したいと記載されているが、外国人人材の採用も考えているのか。

(回答) 考えている。系列法人では、デイサービス等通所系の事業所で海外からの特定技能の人材が頑張っている。

(質問) 施設の整備計画における工事予定スケジュールについて、着工が令和 8 年 8 月で、竣工が令和 9 年 2 月となっているが、施設の建設は半年でできるのか、無理な工期になっていないか。

(回答) 無理な工期ではない。可能である。

(3) 採点結果 (1,200 点満点)

- ・社会福祉法人ひじり福祉会：1,073 点 (得点率 89.4%)
- ・社会福祉法人暁光会：964 点 (得点率 80.3%)
- ・社会福祉法人三養福祉会：1,049 点 (得点率 87.4%)
- ・社会福祉法人孝栄会：807 点 (得点率 67.3%)

(4) 選定会議としての結論

全法人とも得点が 6 割を超え、計画上限の 90 床以内で収まっていることから、全法人を「採択」とすることについて異議なしとされた。

(5) 意見・評価・指摘事項

(全法人共通)

- ・認知症基本法は認知症ケアにおいて非常に重要な法律であるということの認識を持ち、認知症ケアの研修やマニュアルへの反映・充実が必要。特養スタッフは認知症ケアの専門家であり、地域への啓発活動も期待したい。
- ・外国人人材の育成について、OJT 以外の組織的な対応の見える化が求められる。

- ・高齢者虐待防止マニュアルが形式的であるものが見受けられた。実効性のある内容への改善が必要。具体的な対応手順や通報体制の明確化が求められる。

(社会福祉法人孝栄会)

- ・箕面市で初めて施設運営することをふまえ、災害時・緊急時に加え日常においても地域との連携をしっかりと行うよう付言したい。
- ・大規模な全国組織をバックとしているが、苦情対応等については社会福祉法人としての独立性を保ち適切な体制整備が求められる。

以上